

プログラム名 (40字以内)	予土線の鉄道事業と南予エリアの地域振興活動体験		
団体名/所属	JR予土線圏域の明日を考える会		
活動区分	ボランティアなどの社会貢献活動	希望する選考方法	書類審査のみ
募集人数	4人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	現地活動のみ		
参加者に求めるもの	地方行政や地域経済及び鉄道事業に愛着をもつ学生 関係人口創出施策や地方自治への関心ある学生		
活動期間	2026/9月上旬頃 3泊4日	主な活動予定場所	愛媛県予土線とその沿線エリア(南予地域)
プログラム実施の目的	南予エリアの関連人口創出など人口政策と鉄道インフラが果たす役割を、現地体験を通じて考える。		
具体的な内容(800字程度)	<p>愛媛県と高知県を結ぶ予土線が走る四国西南部は四国でも特に人口減少、高齢化が進むエリアです。愛媛県の将来人口予測ではこの20年で1/3、次の20年でさらに1/3減少し、現在の人口の1/31になってしまいます。全国各地域は、相互に均衡ある発展をすることが肝要であり、人口が特定都市部に過剰集中することは、都市部の住みにくさや財政悪化を招くばかりか、望ましい全体最適な地域発展の機会を喪失することなく「地方創生」を進めるべきという、国全体の基本路線を空しくしていく結果となります。こうした事態を放置することは決して望ましいことではありません。</p> <p>そのような中、地域の生命線となる鉄道が廃止されることはさらなる地域の衰退を招きます。乗客を増やして予土線を盛り上げることを軸に地域の活性化を図ることが必要です。</p> <p>そのために、移住者を増やすとともに増加人口流出を防ぐ方策観光振興、この地域の出身者の組織化などで関係人口を増やす方策などを考えていかなければなりません。とりわけ住民が日々の生活の中で意識的に鉄道を利用すること、そのためには世代を超えて地域への愛着を持つことが重要です。今回は予土線に乗りし地域の産業と暮らしを見聞して、鉄道インフラが果たす役割や今後の経営改善の方向などを考える体験機会を持ちます。</p> <p>こういった課題を東大生である若い世代の皆さんとともに考えていきたい。皆さんは、本プログラムを通じて、過疎地域の抱える諸課題を肌身で考え、ひいては将来の日本の「中央と地方の関係」や日本の発展にとっての「地方創生」の持つ意味を、改めて考え直すきっかけが得られると信じます。</p> <p>行程(3泊4日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予土線の小旅行を体験し、どのような集客施策があるかを研究する。</li> <li>南愛媛地域の高齢化と過疎化がどのような行政問題を生むかを研究・討議する。</li> <li>地元地域での産業の衰退の中、近辺のエリアをでの農林業の実態を見聞し、どのような地域おこしが可能かを研究・討議する。</li> </ul>		
【総額】参加するための費用	約75,000円		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	約20,000円		
【内訳】参加するための費用(交通費)	往復約45,000円(東京～松山間の航空券および現地の予土線・バス移動を含む)／早割・学割を利用した場合の目安)		
【内訳】参加するための費用(その他)	食費 約10,000円		
奨励金額(予定)	25,000円		
備考	特になし		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト			
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体が応募の場合)	<a href="https://www.pref.ehime.jp">https://www.pref.ehime.jp</a>		
この企画に対する担当者(応募団体)の参加の有無	参加する		